

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772200176		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームありあ2階		
所在地	福島県若瀨郡鏡石町不時沼52		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignkensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成15年の開所より、12年間地域に愛されるホーム作りを目指して運営しております。又、日々穏やかに安心して暮らして頂けるよう地域の方との関わりを大切にしながら支援に努めております。地域行事への参加等継続性を保てるように支援しております。個々の状態にあった残存機能の活用や個別ケアに努めております。又、町の消防署立ち合いの総合避難訓練やホーム内の避難訓練等も毎月行い安心できるよう努めてもおります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、毎朝申し送り前唱和を行い、共有しながら利用者の方にあつた個別ケアが実践できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動への参加。また、地域行事の際は子供みこしがホームまで訪問していただき、地区の方のご理解をいただき地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内で、グループホームや他介護施設の概要などの説明を取り入れるなどの工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	季節ごとの事業所行事や事故の発生について報告し、助言頂いている。また、頂いた助言については、本社に報告し検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや役場に出向き、入居の相談や状況報告、入居者様の相談をしている。また、管理者が鏡石町介護保険事業計画等策定委員会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしないのはもちろんのこと研修や会議を通じて身体拘束の及ぼす悪影響を理解し、身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルにそって、職員の知識を深め虐待を行わないケアに取り組んでいる。また、そういった行為がないように職員同士も随時確認を行いながら、ケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として制度利用が必要な利用者がいる場合には支援できる体制があり、管理者・職員も研修に参加し、関係制度への理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実調の段階から重要事項については、入居のしおり等を用いて、理解をいただけるように説明している。また、契約の際にも、十分な時間を確保しご理解いただけるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームへの来訪時に、思いを傾聴できるよう職員一同配慮ができるように心掛けている。事業所につたえづらい事例の場合は、行政窓口、第三者委員会の連絡先を契約時に伝えており、事業所内にも連絡先が掲示されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社担当者が適宜ホームを訪問しており、職員の相談等にあたり、職場環境の改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得費に関わる支援制度が新しくできたりなど、職員の処遇改善・意欲の向上につながるように整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修制度があり、職員のスキルにあった研修が選択でき、受講することが可能である。また、働きながら資格所得ができるようにシフト作成等も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流は活発に行われているが、同業他社との交流は少ないのが現状である。地域での交流の機会が確保できるように、管理者同士で連携を図っていききたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族には入居前にアセスメントを行い、入居にいたる経緯や困っていることについて、把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族には入居前にアセスメントを行い、入居にいたる経緯や困っていることについて、把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の見学に訪れた際には、当該事業所以外にも、地域にある介護サービスをお伝えし、利用者、家族にあったサービスが提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの掲示物やホーム内で使用するタオル等を縫ってもらうなど、利用者の好きなことや得意なことが発揮できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、日々の生活や本人の思いを伝えるなど家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の理髪店や歯医者の方も訪問して、散髪や治療を行ってくださり、地域との関係性が途切れないように配慮している。また、ご家族の協力を得ながら、馴染みの理美容室へ行くことができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、良好な関係性が継続できるように、職員が間に入り一人ひとりが孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはホーム内での生活状況等を細かく伝達すると共に、その後家族からの相談事があった際には支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時やモニタリング時には本人及び家族の満足度や希望を確認している。また、日々の生活の中からも利用者からでた要望に対しては、迅速に対応できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで基本的な事項について確認し、入居後も本人や家族の方にこれまでの生活に関わることを聞いて、利用者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身状態の変化に対応できるように、申し送りを行い、必要な場合には主治医、家族に連絡し今後の対応方法について検討したりと把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり職員間でケース会議時話し合い、ニーズに即した計画が作成できるように努めている。また、利用者、家族の意見も取り入れて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践についてはケース記録に記入している。気づき等話し合ったり、ホームノートに記入し共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりに関する情報をケース会議等で共有し、個々のニーズに合わせた支援を行えるように地域包括センターや主治医に援助いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や近所の方の協力を頂き、町の消防署と定期的に避難訓練を合同で実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、ご家族との連携を図り通院や往診等を行っている。症状によっては主治医より他医療機関を紹介してもらい、利用者の健康状態の改善につなげている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を活用しながら、看護師の視点での助言をいただくこともあり、早い段階での主治医への相談、対応ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には病院と連絡をとり、利用者の円滑な支援体制が取れるように、情報の提供を行っている。また、入院した場合には適宜訪問を行い本人の状態把握のために、病院関係者と話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては事前確認書を家族に記入して頂き、早い段階で家族の考えを伺い共有している。また、終末期のホーム利用を希望されない場合、家族と相談し施設の紹介・入所申し込みを行えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を行っている。AEDの使用方法についても研修を行い、必要時には使用できるようにしている。又、全職員が緊急時に電話連絡等がスムーズに出来るよう電話の近くに各関係各所の連絡先の掲示もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、地域の方々にも呼びかけ協力を頂いている。非常時の備蓄品も準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の年齢や地域性にあった言葉かけを行い、誇りを損ねず理解しやすいように、敬語、方言をまじえて対応している。認知症の症状により言語等での理解が難しい場合は、動作を取り入れて言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲物など利用者が希望のものを摂取できるように支援している。行事食などは利用者に希望を聞いて献立を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅い方は、本人の起床時間に合わせて食事を提供している。ゆっくりと召し上がる方もいらっしゃるため、本人の状態に合わせて下膳を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣を利用者が選択できるように、支援している。散髪の場合も利用者の希望の髪形になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	以前のように調理の準備を行っていただくのは難しくなっているが、職員が切る前の季節の野菜を見ていただくようにはしている。又、本人のペースで食事ができ、職員と会話したりと一緒に楽しく食べることができ支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取毎に食事量と水分量を一人ひとり記録、把握している。利用者の状態により刻み食、ミキサー食を提供している。捕食が必要な方は嗜好品について本人や家族に伺い、栄養状態の改善につながるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて職員が支援を行い、口腔内の維持ができるように支援している。不定期ではあるが、歯科衛生士が来訪し口腔状態の改善にむけた助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ着用が多くなってきているが、出来る限りトイレでの排泄ができるように、排泄パターンの把握や表情、しぐさを観察し支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行いバランスの取れた食事や水分摂取を行っている。利用者の嗜好により乳製品を取り入れ自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人に合わせて入浴の声掛け、支援を行い入浴出来ない場合は体調に合わせて清拭を実施している。また、汚染時には清拭を行い感染症の予防や清潔が保てるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や室内の暗さについて配慮し、利用者が気持ちよく入眠できるように配慮している。また、利用者の寝やすい体勢になるようにクッション等を用いて安眠の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の内容について把握し、副作用や服薬量についても主治医や医療連携看護師に相談をおこなったりと支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望により法人のマッサージ師の訪問や個人依頼の訪問マッサージの利用を楽しみにしている。また、補食が必要な方は、嗜好品を提供させていただいたり気分転換等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出は出来ていないのが現状である。利用者の状態によっては、難しいこともあるが、ホーム敷地内を利用し外気浴や行事の一環として町の公園やショッピングモールにてアイスクリームを食べに出かけられるよう支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて大切に鍵をかけて保管している。本人が必要なときはいつでも使えるように支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの直接的な希望がない場合でも、家族の方には毎月お手紙等で利用者の気持ちをお伝えし、両者の関係性が継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	妄想や幻覚の症状がある利用者が混乱しないように、ブラインドを閉めたり、掲示物を整えたり季節の花を飾るなど環境を変えたりと居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態によりリビングの席を移動したりと、一人一人にとって快適な生活空間となるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時に本人や家族に話し、使い慣れた物を持ってきて頂きその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。置物や家族の写真等を飾ったりと安心して過ごせる環境整備もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の残存能力を把握し、出来ることを維持できるよう、居室内の動線を本人と検討し配置換えをしたり、トイレの手すり位置の見直しをしたりしている。		